

2022年3月期第2四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2021年11月4日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像事業

Q：来期の映像事業の見通しは？

A：映像事業は、昨年度までの構造改革効果とプロ・趣味層向けにフォーカスする戦略により今期は着実に営業利益を伸ばしています。構造改革は引き続き継続し、今期末までに「3年間で事業運営費630億円削減」を完遂することで「売上収益1,500億円以下でも営業黒字を確保できる体制」を目指します。ビジネス面では、ミラーレス・カメラにおいても競争力が向上しつつあります。上期投入した新製品 Z fc は若年層や女性にも好評で、年末までにはフラッグシップ機 Z 9 を発売開始します。評価の高い Z マウントレンズは今期末までに約30本、2023年3月末までには40本弱にまで拡充する計画です。

部品調達の制約がある中、製品の供給に最大限努力してまいります。

Q：例年は下期の売上収益が多くなる傾向だが、上期より売上収益が減る計画になっている理由は？

A：ひとえに部品・部材不足による影響です。好評な新製品 Z fc に加え、予約を開始した Z 9 の受注も堅調ですが、部品調達問題により残念ながら製品供給が需要に追い付かない状況が続くものとみています。全社を挙げて部品の安定調達に努め、一台でも多くのカメラを、一本でも多くのレンズをお客様にお届けしたいと考えています。

精機事業

Q：FPD 装置事業では、足もとでパネル価格が下がり、パネルメーカーの今後の設備投資に不透明感がある一方、半導体装置事業では、主要顧客の投資拡大計画もある中で、来期の見通しは？

A：来期の精機事業の見通しは、今期に比べ、FPD 装置事業はマイナスとなり、半導体装置事業はプラスとなるとみています。まず、FPD 装置事業は、コロナ影響で遅延した装置据付が一気に加速した

今期に比べ、売上収益・営業利益は弱含む見通しです。直近のパネル価格の下落により、パネルメーカーの投資計画が見直されていますが、既に受注は確保できており、来年までの影響はほとんどありません。

一方、半導体装置事業は主要顧客を中心に来期の受注は確保できており、売上収益・営業利益は今期より増える見通しです。

Q：FPD 装置事業や半導体装置事業の再来期以降の見通しについて。

A：FPD 装置事業は、昨今の市況からすると TV 向け大型パネル用を中心に投資計画の後倒しも含め 2~3 年先は少し弱含むと見ています。一方、新しい技術のパネルの採用が進めば、高精度で高解像度を発揮できる当社露光機への需要が高まることが期待されます。

半導体装置事業は、主要顧客との間で再来期以降についても具体的な商談が進展しつつあります。主要顧客以外の新規顧客開拓や Litho Booster をはじめとする計測・検査装置拡販など、顧客・製品ポートフォリオを拡げる取り組みを一層強化していく方針です。

コンポーネント事業

Q：コンポーネント事業の来期の見通しはどうか、今期の高い営業利益率を来期も継続できるか？

A：コンポーネント事業では、今期、比較的収益性の高い EUV 関連コンポーネントビジネスが計画通り進捗しており、加えて EUV 以外の半導体関連製品向け光学部品等についても好調に推移し売上収益を伸ばしています。コンポーネント事業全体として来期以降も増収・増益を維持できるものと期待しております。営業利益率は、製品によって収益性が異なるため一概には言えませんが、セグメント全体の利益率は今期よりも低下する可能性があります。

以上